



上野合小学校防災訓練の様子



(2) 地域の災害時要援護者への支援
身体が不自由な方や高齢の方、小さなお子さんなど、いわゆる災害時要援護者は、災害発生時に避難が遅れ、被害を受ける可能性が高くなります。地域での安否確認や避難誘導などの協力をお願いします。



給水の様子（東日本大震災）

(1) 隣近所や地域での助け合い
避難する際には、なるべく隣近所に声をかけながら避難所に移動しましょう。

自分の身を自分の努力で守る（自助）と、自分の住んでいる地域は自分たちで守る（共助）により、地域の防災力を高めましょう。

(5) 地域の防災訓練について
災害時には地域が協力して、避難行動や減災活動に取り組む事が重要です。避難所となる学校と、地域とが連携した防災訓練を行うことで、災害時の対応を学ぶとともに、地域防災意識の向上を図ることができます。

○平成26年度地域防災訓練実施箇所
・上野合小学校：エアテントによる煙体験、心肺蘇生法の学習、AED体験、消火器による初期消火訓練、避難所体験
・沼前小学校：教室からの避難行動訓練、煙体験、心肺蘇生法の学習、AED体験、防災食体験（アルファードによる炊き出し等）

(2) 家庭で出来る減災対策について
・家具の転倒・落下防止
・屋根や塀の点検・補強など
・自動車の燃料は早めに給油

(1) 食料・飲料水等の備蓄
①食料について
・食料は、缶詰やレトルト食品など火を使わず食べられるもの
・3日分の備蓄が目安
②飲料水について
・1人に必要な1日分の飲料水は3リットル
③その他の備蓄品
・懐中電灯、携帯ラジオ、カセットトコノロなど

2. 家庭や事業所での災害対策

家庭での備え

災害時には地域が協力して、避難行動や減災活動に取り組む事が重要です。避難所となる学校と、地域とが連携した防災訓練を行うことで、災害時の対応を学ぶとともに、地域防災意識の向上を図ることができます。

○平成26年度地域防災訓練実施箇所
・上野合小学校：エアテントによる煙体験、心肺蘇生法の学習、AED体験、消火器による初期消火訓練、避難所体験
・沼前小学校：教室からの避難行動訓練、煙体験、心肺蘇生法の学習、AED体験、防災食体験（アル



茨城町では、東日本大震災の教訓をもとに、備蓄品の整備、情報伝達体制の充実、応援協定の締結など、様々な防災対策を行っています。大規模な災害から自分の身を守るために、行政の防災対策、家庭や事業所での備え、地域での助け合いが重要となります。日頃から災害に備えましょう。



(1) 防災備蓄品の充実
町では、これまでの非常食・飲料水の備蓄に加え、避難生活支援を行うための防災備蓄品の整備を進めています。今後も備蓄対策の強化に努めます。

○備蓄品の例
・毛布 3,000枚
・発電機 ガソリン式 5台
・ガス式 3台
・更衣室用簡易テント 14張
・間仕切りセット 24張

(2) 防災倉庫の整備
避難所となる小中学校に防災倉庫を設置し、合計8か所になりました。これにより避難所への早期支援が可能となります。

平成26年度は、2か所に防災倉庫を設置し、合計8か所になりました。平成28年度までに、統合前の12小学校全てに防災倉庫を整備します。

(3) 情報伝達手段の強化
災害情報を伝達する茨城町防災行政無線を長時間の停電にも対応できるよう蓄電池の容量増加を進めてきました。平成26年度の整備により、全ての無線子局が長時間対応となりました。

○平成26年度に締結した企業・団体等
・水戸農業協同組合（生活必需物資の供給協力等）
・株式会社ゼンリン（地図製品等の供給等）



（株）ゼンリンとの協定締結式